

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	文学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.1 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針
小項目	6.1.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
要素	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示 教育目標と学位授与方針との整合性 修得すべき学習成果の明示
小項目	6.1.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
要素	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示 科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示
小項目	6.1.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか。
要素	周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	6.1.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 2007年度の再編による学部、前期課程、後期課程の間の教育課程の連携を安定的に維持・発展を図る。	→学部科目と大学院前期・後期科目の共通基盤と専門基盤の評価。学部からの内部進学者の授業評価および成績状況	B	B	B	B	B
2. 厳正な学位審査体制を強化する。	→博士論文の公開発表会の実施状況と外部審査員の登用(文学研究科内規別表3)状況。	B	B	B	A	A
3. 教育課程に即した専門分野を明示し、大学院案内で公表し、大学院オリエンテーションで周知させる。	→大学院履修・学習要覧Webサイト(http://www.kwansei.ac.jp/youran)とオリエンテーションプログラム表	C	C	C	B	B
4. 課程制博士課程における、入学から学位授与までの教育システム・プロセスの円滑化に向けた実質的な制度を設計する。	→入学から学位授与までのタイムテーブル(大学院履修・学習要覧Webサイト)を守っているか定期的指導の実施状況。	B	B	B	B	A
						☆
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

<p>目標1</p>	<p>B</p>	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 各専修・領域(学部基礎組織を持たず修士課程のみの学校教育学領域を除く)において、学士課程・博士課程前期課程・博士課程後期課程間の教育課程上の継続性を担保した授業・担当教員の配置を行っている。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 本学文学部から文学研究科に進学した内部進学者数は2013年度は32名、2014年度は32名であり、本学文学研究科前期課程から後期課程に進学した者は2013年度は13名、2014年度は16名と安定した高い数値を示しており、課程間の継続性が担保されている。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 引き続き、教育課程上の継続性を担保した授業・担当教員の配置を進める。必要かつ可能な場合には学士課程および博士課程前期課程の授業の合同開講を行うなどの工夫を進めるが、その際には評価基準の差別化などの適切な措置をとる。</p> <p>その他</p>	<p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p>
<p>目標2</p>	<p>A</p>	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 博士論文審査委員会の設置に際して学外専門家を委員として招聘するとともに、公開発表・審査の拡大に努めてきた。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2013年度には外部審査委員が加わった審査委員会による審査件数は総審査件数21件中19件と一般化しており、研究科内委員のみのものはむしろ例外的になりつつある。公開発表会・審査会も定着してきており、掲示・文学部/文学研究科HPでの周知などに努めている。また、審査委員会による審査過程の公開も一般化した。審査報告書は関西学院大学リポジトリに掲載している。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 引き続き、学外審査委員の招聘、公開発表会・審査会の実施に努める。</p> <p>その他</p>	<p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p>
<p>目標3</p>	<p>B</p>	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 3専攻12領域(後期課程は11領域)よりなる文学研究科の多彩な専門分野に関しては、大学院履修・学習要覧Webサイトとオリエンテーション・プログラム表に明示するとともに、『関西学院大学大学院案内』でも詳細な紹介を行っている。学部学生などを対象とした大学院説明会でも周知に努めている。また、研究指導教員の研究分野の公表も各種媒体を通じて実施している。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 各領域の専門分野に即した志願・入学が担保されている。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 引き続き、各領域の専門分野の明示を進めていく。</p> <p>その他</p>	<p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p>

目標4	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2014年度より学年末に研究進捗状況報告書の提出を義務づけ、研究科が組織として大学院生の研究進捗状況と具体的な成果、次年度の研究計画を確認するようにした。これは同時に、大学院生がみずからの当該年度の学修・研究進捗状況について自己評価し、見通しを持って学位論文作成に向かうよう促すことを目的としている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 先行的にベーツ奨学金受給学生には同様の報告書の提出を求めてきたが、いずれの学生も研究成果・進捗状況、次年度の研究計画を適切に記述している。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 2014年度からの導入であり、確実に提出させて制度を定着させることが重要である。	☆
		その他	☆
			☆
備考			☆